

令和3年度 小規模保育園『キッズハウスひかり』 自己点検評価

○この自己点検評価は、保育所保育指針をもとに、保育の質向上を目指す上で必要だと考えられる20項目を定め、保育士個人による評価をもとに、園内で話し合いを行い評価したものです。

第1章 総則 教育・保育の基本

教育・保育の基本

※評価については 大変良いA 良いB 普通C 努力が必要D

		評価	改善点
1	乳幼児期の教育及び保育は人格形成の基礎と生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われること、そして子どもの最善の利益を考慮してすすめることを理解していますか。	A	継続

教育及び保育の配慮

2	あなたは、一日の生活の連続性やリズムの多様性に配慮して保育を展開していますか。	A	継続
3	子ども一人一人に、わかりやすい温かく優しい言葉で、おだやかに話しかけていますか。	A	継続

指導計画作成と評価

4	入園までの生育歴や日々の保育記録を子ども一人一人の発達理解に生かし、養護面の配慮が個別的に指導計画されていますか。	A	継続
5	あなたの保育について反省・評価し、それを次の指導計画の作成に生かしていますか。	A	継続

子どもの発達

6	子どもの発達(環境)は豊かな心情、意欲、態度を身につけ、新たな能力を獲得していく過程であることを理解し、子どもが興味や関心を持ったものに対して自分から関わろうとしている姿を認めたり励ましたりしていますか。	A	継続
---	--	---	----

第2章 「ねらい」及び「内容」

乳児保育に関わるねらい及び内容

7	温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すように努めていますか。	A	継続
---	---------------------------------	---	----

1歳児以上3歳児未満児の保育に関するねらい及び内容

8	安定感をもって生活できるように受容し、また子どもの気持ちを尊重し、温かく見守り、愛情豊かに、応答的に関わっていますか。	A	継続
9	体を動かす機会を十分に確保し、子どもが自分から動かそうとする意欲が育つようにしていますか。	A	継続
10	食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の回りの清潔などは子ども一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で子どもが自分でしようとする気持ちを尊重して対応していますか。	A	継続
11	感覚の発達が促されるように、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて玩具、絵本、遊具などを選び、それを使った遊びを楽しめるような環境を用意していますか。	B	自然現象をはじめとし、様々な事象と生活している中で子どもの発見に共感する。子どもの気付きを促し、感覚の働きを豊かにする環境を構成する。
12	身近に経験したことや生活の中で興味のあること(歌や手遊び、体操など)を、自分なりにイメージを広げて表現できるようにしていますか。	A	継続

配慮事項

13	子どもの活動、発達は心身共に個人差が大きく発達過程をふまえた上で保育を展開し、気持ちや行動を受け止めるなど配慮をしていますか。	A	子どもの発達過程を踏まえた保育が展開できるよう、一人一人の子どもの心の動きや物事に対する意欲など、内面の育ちに対する理解を深め、配慮する。
----	---	---	---

第3章 健康及び安全

健康支援

14	子どもの日々の健康状態を把握し、それを一人一人の保育に活かしていますか。	A	継続
----	--------------------------------------	---	----

食育

15	子どもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるように配慮していますか。	A	継続
----	----------------------------------	---	----

環境

16	室内の温度や湿度、頭髪、爪などの清潔に心がけていますか。	A	継続
----	------------------------------	---	----

災害への備え

17	避難経路を振り返り、うまくいった点や反省点を記録に残していますか。	A	継続
----	-----------------------------------	---	----

第4章 子育て支援

保護者に対する子育て支援

18	保護者からの相談内容などを、あなた一人の問題にしないで、園全体で受け止めようとしていますか。	A	継続
----	--	---	----

第5章 職員の資質向上

職員の資質向上

19	研修に参加したり専門書を読むなどして、保育に関わる様々な知識を習得したり技能の向上に努めていますか。	A	継続
20	自己評価など、自分の保育を定期的に振り返る機会をもっていますか。	A	継続

※参考文献

『保育者のための自己評価チェックリスト』～保育者の専門性の向上と園内研修充実のために～(H29年告示改訂版)

○今年度の保育を見直し、来年度改善を目指します。また、評価の高かった項目についても、さらに創意工夫の下、質の向上を目指し精進して参ります。

●保育士個々の自己評価を行った結果、園としての課題は何か。

1	<ul style="list-style-type: none"> ○保育士同士の報連相が足りない。 ○異年齢・合同保育での環境設定。 ○物の配置等も含めた各クラス、部屋の環境設定。 ○子どもの状況に応じた柔軟な保育。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○行事の内容(発案)及び運営、準備が目標に沿って行われていない。 ○行事に取りかかることが遅く、行事毎に反省意見が出ているのに改善されない。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもと遊ぶ保育士の明るい声が聞こえない時がある。 ○保護者に対する子育て支援。 ○外国籍家庭、ひとり親家庭等、状況に応じた支援。(個別支援)

●その課題を達成するために、今後園としての取り組まなければならないことは何か。

1	<ul style="list-style-type: none"> ○報連相の徹底、日常のエピソードや子どもとの関りで見つけたことを気兼ねなく話せる雰囲気を作る。 ○子どものありのままの姿を捉え、保育内容のPDCAを繰り返す。 ○発達に合う様々な体験を積めるよう、物的・人的環境を整える。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○行事の案出しを積極的に行い、担当者は決定をスピーディに行う。 ○業務が滞りなく行えるよう、ToDoリストを活用し保育士全員で把握する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の気持ちを受け止め相互の信頼関係を基本に保護者の自己決定を尊重する。 ○保育所の特性を生かし保護者が子どもの成長に気付き子育ての喜びを感じられるように努める。 ○保育士間に業務の偏りが無いようにするため、自ら協力を仰ぎまた協力し、保育士同士で連携を図る。 ○保護者の多様なニーズに応じるため、送迎時に丁寧な対応をし家庭状況や問題を把握する。

●来年度に向けた目標について

1	<ul style="list-style-type: none"> ○職務及び責任の理解と自覚、必要な知識及び技能を身につけるよう、研修内容を共有し保育に反映させる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○保育の専門性の向上や保育実践の改善に努める。 ○職員間での知識の共有を図り、協働性に努める。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○保育はチーム力なので、視野を広げ今何をするべきか判断し行動する。 ○意見交換を積極的に図り、それぞれの経験や保育観を尊重する。

※参考文献

『保育者のための自己評価チェックリスト』～保育者の専門性の向上と園内研修充実のために～
(H29年告示改訂版)